

ご自由にお取りください

新企画 自慢してもイイですか!
株式会社
高鋒建設酒販卸事業部(上勝町)

定住自立圏取組情報
共生ビジョン連携事業紹介

市町村特集
石井町
健康な生活を支える最新設備と
充実したトレーニングスタッフ
上板町
阿讃南山麓に
芽生えた甘味文化と
受け継がれる技術

結ぶ

Vol. 12

徳島県東部12市町村 MUSUBU

ブランドのチカラ
中華そば 岡本中華(小松島市)
産直市&ギャラリーカフェ 佐那の里(佐那河内村)
パン工房 ぱんぱかぱん(松茂町)
人を結ぶ
板東 理人さん(北島町)



クイズで商品ゲット
抽選でプレゼントが
当たるよ!

岡田製糖所
職人 坂東永一さん

徳島県東部12市町村

結ぶ
MUSUBU
Vol. 12

2018年3月発行 | 発行 徳島県東部地域定住自立圏推進協議会事務局 〒770-8571 徳島県徳島市幸町2-5 徳島市企画政策局企画政策課内 ☎088-621-5085
編集・印刷 太陽高速印刷 有株式会社

人を結ぶ



北島町商工会 会長
板東 理人さん
ばんどう みちひと

北島町

北島町中村、通称老門生まれの54歳(3月時点)

Q北島町商工会 会長として町をどう見て、
どんな取り組みをしようと考えていますか。

北島町は県内でも数少ない人口が増えている町ですが、もっと住みよい
もっと安心・安全な町になるといいなど考えて、商工会でも様々な事業を
行っています。

将来に向けた事業では、東邦レーヨン跡(現:大鵬薬品)の源九郎狸関
連の事業です。源九郎狸というのは源平合戦で屋島に向かっていった源義
経一行を道案内し、その褒美で「源九郎」という名を与えられたといわれて
いる伝説の狸です。この事業では、多くの皆さまからご協力いただき昨年春
に祠を再建することができました。また北島町にゆかりのある漫画家竹宮恵
子先生に源九郎のイメージデザインを、北島町の小西昌幸さん、作曲家の
住友紀人さんにオリジナル曲も作っていただきました。この曲には四国大の田
村典子先生に振り付けもお願いし、きたじまひょうたん阿波おどりなどのイベ
ントで四国大学の学生さんに踊ってPRしていただいています。

今後の源九郎狸事業の展開も計画しており、近く実行しようと思います。
人とモノが活発に交流する北島町を目指して。

QPTA活動を長くされたようですが、

北島小中学校でPTA会長を10年間させていただきました。そのご縁もあ
り今でも子どもの安全は気になります。

2013年にはPTA関係メンバーを中心に「青色バイクパトロール隊」を結
成し、会員9名が主にバイクで下校時に見守り活動を行っています。最近
は不審者情報も少なくなっていますが、今後も安全に気を付けて活動を続け
ていこうと思っています。

また子どもたちのために学校を支援する「学校支援ボランティア」のコー
ディネーターをしています。現在は読み聞かせや学習支援などで保護者や
学生さんを紹介するのが主な内容ですが、昨年から歩きながら子どもに声掛
けする「下校時見守りパトロール」も行っています。

PTA活動を含め、人と人のご縁で町からもいろいろなお声掛けをいただき
ます。今後も微力ながら頑張りたいと思います。

冊子の設置場所

12市町村役場/徳島市立図書館/小松島みなと交流センターkocolo/道の駅「ひなの里かつら」/いっきゅう茶屋/佐那の里/
JR石井駅/神山温泉/松茂町歴史民俗資料館/北島町立図書館/創世ホール/藍住町立図書館/あせび温泉/技の館ほか

「徳島東部地域定住自立圏」とは? 「結ぶ」って?
徳島市を中心として近隣の11市町村と連携して「徳島東部地域定住自立圏」を形成し、12市町村が役割分担しながら連携・協力することで圏域全
体の発展に向けたさまざまな取り組みを展開しています。本誌は徳島東部12市町村の住民の皆さんが「徳島東部地域定住自立圏」の魅力を知り、取
り組みに参加することにより、市町村の枠組みを越えて、お互いが交流し結びつきを深める「結ぶ」ことを目的として発行しています。

【参加市町村】
徳島市・小松島市・勝浦町・
上勝町・佐那河内村・石井町・
神山町・松茂町・北島町・
藍住町・板野町・上板町



とくしまLED・デジタルアートフェスティバル



シンボルアート作品1 自立しつつも、呼応する生命

定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取り組みにおける、中心市街地の都市機能の充実において、LEDが魅せるまち・とくしま推進事業を行っています。徳島市の豊かな自然環境と地域資源であるLEDを活用したまちづくり「LEDが魅せるまち・とくしま」を推進するため、従来の徳島LEDアートフェスティバルを再構築し、LEDに加え、デジタルアートを取り入れた新たなイベントとして徳島県と連携



2月9日のオープニングセレモニーより

会場は徳島市中心部を四つのエリア(新町川・城山公園・万代倉庫・県庁)に分け、猪子寿之さん率いるチームラボの四つのシンボルアート作品を各エリアに展示しLEDデジタルアートが織りなす世界観で来場者に

感動を与えました。また期間中はワークショップやライブ等パフォーマンスなどのイベントで賑わいました。会場が広域化したことで、エリア巡回バスやひょうたん島周遊船を利用した交通手段も好評でした。



シンボルアート作品3 秩序がなくともピースは成り立つ



シンボルアート作品2 城跡の山の呼応する森



シンボルアート作品4 チームラボクリスタル花火

会期：2018年(平成30年)2月9日(金)から18日(日)
会場：徳島市中心部
主催：とくしまLED・デジタルアートフェスティバル実行委員会、とくしまLED・デジタルアート推進協議会、徳島県、徳島市

MUSUBU NEWS TOPICS

徳島東部地域定住自立圏 共生ビジョン連携事業紹介

「とくしまLED・デジタルアートフェスティバル」を開催しました。本フェスティバルは、これまで整備してきた水と緑の魅力にLEDによる「光」の要素を加えることにより、まちの魅力をもさらに引き出すとともに、新たな価値を創造し、それを国内外に発信することによって、インバウンドを含めた観光誘客の増加やまちの活性化につなげることを目的としています。

建設会社が酒を造るきっかけとなったのは、平成23年上勝町で開催された「棚田サミット」にありました。前年の22年視察で訪れた静岡県松崎町では、すでに棚田米の酒造りが始まっていた。上勝町でも出来るはずと考えた同社社長山下俊洋さんの決断は早く、早速農協に掛け合い酒の原料になる米をかき集め、知り合いの酒造メーカーに依頼して酒造りが始まりました。

かねてより人口減少、高齢化による田畑の耕作放棄地が目立ち廃れていく棚田の現状を憂えていました。棚田の保全、農業後継者の育成、上勝の活性化の一助にしたいと農家の協力を得ながら酒造りに励んでいます。

酒造りを始めて7年、県内外に手堅く販路を拡大してきました。またインバウンドの時代を見据え海外市場にも目を向け、多くの外国人にkamikatsuを知ってもらおうとしています。これからの同社の動向に注目が集まりそうです。



棚田米のお酒を持つ高鉾建設酒販卸事業部の山下和美専務(左)とスタッフの酒井彩さん



日本の棚田百選の檜原の棚田



オーストラリア・シドニーでアイアンシェフ3人に上勝を紹介する。前列右よりイタリアンの坂井宏行さん、和食の道場六三郎さん、中華の陳建一さんとスタッフの酒井荘史さん



高鉾建設が耕作放棄地を整備した城ヶ太尾

株式会社 高鉾建設酒販卸事業部

上勝町

地域の支えをバネに酒造りに励む 棚田米と湧水がつむぐ上勝の酒

自慢① 農家とお米が自慢

「80歳を過ぎたおじいちゃん、おばあちゃんが酒の原料のキヌヒカリのお米作りを頑張ってくれてます。有難い話です」と同社専務の山下和美さんは言います。現在、上勝町内の農家約25軒の協力を得ています。

自慢② 水が自慢

標高700mの岩場から湧き出る透き通った水を使い酒造りをしています。まじりつけの無い、ピュアな水は棚田米との相性も抜群でそのまま飲んでもミネラル豊富で美味しいと評判です。

自慢③ 地域が自慢

料理のつまものに欠かせない葉っぱビジネス「いろどり」や自生するお茶を生産する「上勝晩茶」。また、「ごみゼロ運動」「ゼロウェイスト」など山あいの町ながらユニークな取り組みが目立つ上勝町です。み



株式会社 高鉾建設酒販卸事業部
徳島県勝浦郡上勝町大字傍示字西峯146番4
電話/0885-44-1388
Fax/0885-44-5388
http://takahokosake.com

ヒットの予感

上勝
純米吟醸原酒
KAMIKATSU

フルーティで飲みやすいお酒です。主に外国を意識して作りしました。白身魚のカルパッチョや生ハムなどによく合います。また上勝の棚田と湧水をイメージしたパッケージが斬新。

徳島東部地域定住自立圏のなかで活躍する企業や組織にスポットを当て、自慢の商品や技術、取り組みなどを紹介するコーナーです。



阿讃南山麓に芽生えた甘味文化と受け継がれる技術

200年前の製法そのままに、手づくりで和三盆糖を作り続けている。



岡田製糖所
板野郡上板町泉谷原中筋12-1
☎088-694-2020
営/9:00~17:00 休/土日祝

上板町の気候は平地で年平均気温が16・0℃で、冬季でも平均気温は0℃を下回ることはありません。これは本来、亜熱帯植物のサトウキビが育つ北限限界の気温であり、くわえて降水量が少なく通気性の良い土壌に恵まれたことが、この地でサトウキビづくりが行えた二因になっています。

阿波和三盆糖の発祥は18世紀の末、地元の青年修験者、丸山徳弥が修行の道すがら日向国延岡(宮崎県)から甘蔗の苗を持ち帰り、苦心の末に独特の製糖法を確立したと伝わっています。

昭和30年代には上板町内には20数軒の製糖所があり、釜場から竹糖を煮詰める甘い香りが漂っていました。その

後は海外から安価な精製糖が出回り、製糖所の数は減りましたが、和菓子材料として使われる高級な砂糖としてブランド化し重宝されるようになりました。

和三盆糖の原料は茎が細い竹糖という在来種です。今でも上板町内には30軒ほどの農家で栽培され11月末から1月にかけて収穫されます。竹糖を機械で絞り、絞りを煮詰め、冷し窯で白下糖を結晶化させ、職人が繰り返し研いで乾燥させて和三盆糖を完成させます。

竹糖を作る農家の高齢化や製糖所の減少などマイナスの要因はありますが、物づくりの伝統に支えられた技術と精神は脈々と受け継がれています。

健康な生活を支える最新設備と充実したトレーニングスタッフ

平成15年4月に石井町飯尾川公園にOKいしいパーク四銀いしいドームの運営を開始して15年になります。オープン以来、順調に来場者を増やして、県内の健康・スポーツ施設では随一の集客を誇っています。

石井町内外を問わず多くの方々にご利用いただき、交通の便の良さや駐車場の充実が利用者の方々に好評です。

プール館は25m×7コースの温水プールや子ども用プール、ウォーキングプールなどを備えています。

温水プールは日本水泳連盟公認で全国大会を開催できる規格になっています。

トレーニング館は複数のトレーニングマシンの導入に努めています。

また、スタジオでは音楽に合わせたバーベル運動「ボディバンプ」や軽快なリズムでダンスをする「シバム」などが人気のプログラムで毎回多くの方が体を動かし、気持ちのいい汗を流しています。



OKいしいパーク四銀いしいドーム
名西郡石井町高川原字高川原2115番地の3
電話088-675-2211 FAX088-675-2270
営:火曜~土曜10:00~22:00、日曜・祝日9:00~19:00
休:毎週月曜・年末年始

OKいしいパーク四銀いしいドームは誰もが気軽に利用できる施設として、体力向上・健康づくりに役かっています。



PRESENT

クイズに答えて「ブランドのチカラ」商品をゲット

正解者の中から抽選で13名様に、プレゼントが当たります。

問題 今年2月9日～18日まで徳島市内中心部で開催された、光の祭典は「とくしま000・デジタルアートフェスティバル」です。

※ヒントは2ページにあります。

応募方法

官製はがき、またはメールで、①クイズの答え、②プレゼントの希望商品の名称③郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号、④本誌に対する感想を、ご記入の上〒770-8571 徳島市幸町2-5 徳島市企画政策課内「結ぶ」プレゼント係(メールの場合は、kikaku_seisaku@city-tokushima.i-tokushima.jp)へ平成30年5月25日(金)(必着)までにお送りください。

※お寄せいただいた個人情報は、プレゼントの発送とそれに係る業務のみに利用します。
※当選者の発表は、引換券の発送(6月初旬予定)をもってかえさせていただきます。

◆当選者の方へ◆
引換券が到着しましたら、いずれも2018年6月30日までに各来店ください。



▲松茂係長パン



注目を集める松茂係長パン

パン工房 ぱんぱかばん 松茂町

ぱんぱかばんは、社会福祉法人愛育会の就労支援部門、指定障害サービス事業所「なごみ」のパン製造販売部門で、障がいを持つ人がパン作りの技術や経験、接客等を学び社会参加のための支援を受けている施設です。現在10人がぱんぱかばんに在籍し、そのうち1人が交代でお店で接客にあたっています。作るパンの種類は豊富で、あんパン、チョコパン、クリームパンなど定番商品の他に惣菜パン各種マフィン、牛乳食パンなどがあります。2ヶ月に1度はアイデアを出し合い新商品の開発をしています。昨年12月には全国の福祉施設で働く障害者の作るパンのコンテスト「第8回チャレンジドカップ」で藍粉を生地に練り込んだ藍パンで見事「アイデア賞」を受賞、日頃の努力と研さんが報われました。最近のヒット商品は松茂町産のさつまいもを使い町の Mascot キャラクター「松茂係長」をモチーフにしたパンで、キャラクターとの相乗効果で人気の浸透を図っています。



第8回チャレンジドカップ パン部門アイデア賞の表彰状を持つ販売員の和泉睦美さん

パン工房 ぱんぱかばん

- 板野郡松茂町笹木野字八北開拓236番地1
- TEL 088-683-4988(工房)
- TEL 080-2984-3147(店舗)
- 営/11:00~16:00
- 休/土曜・日曜・祝日



PRESENT

パン各種詰合せ引換券(3名様)有効期限2018年6月30日

POWER of BRAND

ブランドのチカラ



▲国道438号沿いの郵便局を過ぎてすぐ



▲棚田米や加工品もあります



▲村の食材でいっぱい

産直市と地域コミュニティの拠点

産直市&ギャラリーカフェ 佐那の里 佐那河内村

かつては高樋(たかひ)小学校のあった所が、産直市に生まれ変わって今年で8年目。地域に賑わいを取り戻そうと集落の退職者や兼業農家が中心となり2010年7月「佐那の里」が発足しました。新鮮な村の野菜や果物を中心に販売し、旬の食材がリーズナブルな金額でお求めいただけ、手作りの雑貨も人気の一つです。ギャラリーカフェコーナーではお弁

当を中心に珈琲も楽しめ、手作りのお弁当は地元の食材をふんだんに使用し、どこか懐かしい味でもてなしてくれます。地域のコミュニティの場としても利用され、休憩がてらにギャラリーを見たり珈琲をいただきながら、ゆったりとした時間をお過ごしください。現在、スタッフ5人が力を合わせ仲良く運営しており、食材の入荷の多い土曜日のご来店がお勧めです。



▲スタッフは最高の笑顔でおもてなし

産直市&ギャラリーカフェ

- 佐那の里
- 名東郡佐那河内村下字高樋46-1
- TEL 088-679-2295
- 営/毎週土・日曜日 9:00~16:00



PRESENT

佐那の里でのお食事あるいはお野菜詰合せ引換券(5名様)有効期限2018年6月30日



守り続ける伝統の味と職人の心

中華そば 岡本中華 小松島市

白濁した豚骨スープが特徴のラーメンで徳島ラーメン・白系と称されています。岡本中華は昭和26年、小松島港付近で屋台を引いてのスタートでした。当時の港周辺を知る人は少なくなりつつありますが、相当な賑わいがあったことが想像されます。現在の店主は福井雅人さんで3代目になります。その間、店舗の鉄筋化、移転などがありましたが、一子相伝の味を頑なに守り続けています。

岡本中華の源である元ダレのスープは初代が作ったものを引き継ぎ、常に追求しベストなものを目指しています。麺はこしがあり、甘味が感じられるように中太ストレート麺で、チャーシューは上質な阿波ポークを使いバラ肉とモモ肉の食感を楽しめます。数ある「徳島ラーメン」の中で伝統の味を守り続け、お客さんの信頼を得てきた岡本中華は徳島を代表する食べ物の一隅を築いています。



▲スタッフと福井店主(真ん中)

中華そば 岡本中華

- 小松島市中田町奥林60-1
- TEL 0885-32-0653
- 営/11:00~20:00
- 休/木曜



PRESENT

肉入り中華小引換券(5名様)有効期限2018年6月30日

編集雑記 Vol.12

ペンネーム レヴィータ (勝浦町)

昨年8月に勝浦町地域活性化センター「レヴィータかつら」が完成しました。「レヴィータかつら」は、観光、交流又は移住についての業務、地域のコミュニティ活動の振興業務及び地域資源を活かし、町を活性化するための業務を行う施設です。勝浦町地域活性化協会の拠点として、観光、交流、移住、まちづくりの研修などに関する事業を行っているほか、町内各種団体の会議など多目的にご使用いただけます。また、交流スペースや展示情報コーナーは、無料でご使用いただけるようになっており、館内Wi-Fi設備も完備されておりますので、お気軽にご来館ください。

ペンネーム 部屋の掃除しなきや (神山町)

神山町では3ヶ月に1度、30分番組を制作し、ケーブルテレビ徳島のふるさとふれあいテレビという番組で放送しています。先日は町内の広野地区にある狛犬を全て巡って紹介をしました。「30分間ひたすら狛犬を見せられても飽きるだろうな」と、どんより気分が編集作業をこなしていましたが、放送してみると意外や意外、大好評ではありませんか。この「結ぶ」という雑誌を通じて、12市町村が力を合わせて各々の魅力を発信していますが、これからも普段何気なく見ているものを違った角度で伝えたり、気づかなかった魅力を新たに発見したり、試行錯誤をしていきたいと思っております。

表紙の写真



岡田製糖所(上板町)

「白下糖」と呼ばれる粗糖から糖蜜を抜く「研ぎ」作業をする坂東永一さん。親子二代にわたって研ぎ職人をしている。ほとんどの工程が人の手によってなされ、上質な和盆糖が作られていく。